vol.38
2019.05
H-SATT
農林水産省 近畿農政局（兵庫県拠点）

農政局だより@ひょうご

〒650-0024
神戸市中央区海岸通29 神戸地方合同庁舎
TEL:078-331-5924　email:hyogo28_hsatt_kinki@maff.go.jp

「佐用もち大豆」が地理的表示（GI）として登録！！

兵庫県の農林水産物では、「但馬牛」・「神戸ビーフ」に続き3品目

登録番号第78号「佐用もち大豆」

「佐用もち大豆」は、佐用町内のみで生産している在来種の大豆で、加熱した時のもちもちとした独特の食感が最大の特徴である。

大粒で平均百粒重が40gを超え、県内で流通している一般的な品種と比較すると、約3割重量が重い。さらに、ショ糖をはじめとした糖質含量が高く甘味が強い。

また、加熱すると保水力が増し弾力が強くなる作用があるグリシニンの含有量が他の大豆に比べて高い。粒が大きく吸水量が多いことに加えて、グリシニンを多く含むことで、加熱すると柔らかいが粘りが強い独特の食感になる。

このことは、大豆を専門に取り扱っている流通業者からも高く評価されており、「佐用もち大豆」を使用して製造した豆腐は、大豆の風味と甘味、やわらかさが評価され、全国豆腐連合会が主催する2016第2回全国豆腐品評会絹ごし豆腐部門で銀賞全農賞を受賞している。

地理的表示（GI）保護制度とは？

地理的表示保護制度は、「地理的表示」とその生産地や品質等の基準を国に登録し、基準を満たしたものだけが「地理的表示」の使用を認められるというものです。

また、地理的表示の不正使用を国が取り締まって、地域ブランドを守ります。

地理的表示として登録が認められた産品には、地理的表示と併せて登録標章（GIマーク）を付すことができます。現在、「但馬牛」、「神戸ビーフ」など、全国で79産品が登録されています。

登録番号第2号：但馬牛

登録番号第3号：神戸ビーフ

http://www.maff.go.jp/j/shokusan/gi_act/index.html

「農の雇用事業」第2回の募集中！（令和元年8月研修開始分）

農林水産省は、農業法人等が就農希望者を新たに雇用し、営農に必要な農業技術や経営ノウハウ等を習得させるために実施する研修に対して支援を行う「農の雇用事業」を実施しています。

事業実施主体である一般社団法人全国農業会議所（全国新規就農相談センター）において、令和元年8月研修開始分を令和元年6月7日（金曜日）まで募集中です。

募集要領、申請様式は全国新規就農相談センターホームページ又は各都道府県の農業会議で入手できます。

また、その他として「新法人設立支援タイプ」、「次世代経営者育成タイプ」、「被災農業者向け農の雇用事業」 も併せて募集しています。

詳しくは http://www.maff.go.jp/j/press/keiei/zinzai/190507.html

キラリ☆現場にて

農業を通じて、「稲美町」を知ってもらいたい！！

稲美町で、水稲、キャベツ、トマト、キュウリ等を栽培している、松井農園の松井義輝さん（45歳）にお話を伺いました。

農業については、昔から朝市への出荷を手伝うなど関わっていました。

大学農学部を卒業後、近くの卸売市場に就職をしていましたが、美味しく食べてもらう農産物を自分で作りたい思いが強くなり、27歳で会社を辞めて親が経営する松井農園に就農及び経営参画しました。

就農当時は、美味しいものをつくろうと励み加工食品の開発にも参画しましたが、味だけでなく目で楽しめる彩りのカラーフードにも取り組み、「採って笑顔、見て笑顔、食べて笑顔」を意識した栽培等に取り組みながら、生産した米・野菜は、直売所等で販売しています。

美味しいトマトを作るため、生育にゆっくりと時間をかけることにより、甘みが凝縮するよう努力をしており、先日、消費者から「おいしい」との声をいただき嬉しかったです。

また、周辺の農家の高齢化等により、耕作依頼がされることも多くなり、栽培面積が増加するにつれ、若い農家を増やす必要があると感じており、新規就農を受け入れる農家になるよう考えています。

現在は、農福連携の実証として企業と連携した取り組みも始めたところです。

今後は、農業を通じて、稲美町の良さを消費者の皆さんに知ってもらいたいと考えています。

その一環として、地元で開催している「トマト祭り」を関係機関とともに盛り上げるなど、地域の交流の拠点となるように取り組んでいきたいです。

農業者向け農福連携研修会のお知らせ（4回連続講座）

農福連携とは、障害者等の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取り組みであり、「農業における労働力確保」及び「障害者等の就労先確保」の課題解決と利益（メリット）があるWin-Winの取り組みです。

兵庫県が主催する本研修会では、農業現場への障害者受入に係る具体的な注意点等を学び、障害に対する理解促進と支援技術の向上を図ることを目的としています。

すでに農福連携に取り組んでいる方、これから取り組んでみたい方、関心のある方など、たくさんの方のご参加をお待ちしています。

＜実施概要＞

日時：時間は全て10時～16時、４回連続講座
7月11日（木曜日）：農福連携の概要、農作業分析演習
7月25日（木曜日）：農作業委託の事例、障害の理解と支援
8月　1日（木曜日）：受入計画立案模擬演習
8月22日（木曜日）：県内先進事例現場見学及び意見交換

講師：県立淡路景観園芸学校　豊田正博准教授ほか

場所：兵庫楽農生活センターＡ研修室（神戸市西区神出町小束野）

参加費：無料

対象者：障害者への作業委託を検討する県内農業者（農業法人、認定農業者、新規就農者等）、農業団体、特別支援学校・農業高校教諭、行政等　（20～30名）

申し込み：兵庫県ホームページから参加申込書をダウンロードのうえお申し込みください。
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk03/noufuku-renkei.html

主催・お問い合わせ先：兵庫県農政環境部楽農生活室　TEL078-341-7711（内線3934）

キラリ☆現場にて

夫婦2人3脚！力を合わせて！

南あわじ市で、レタス、玉葱を栽培･販売されている「Top Field」代表の堤直也さん（32歳）にお話を伺いました。

高校卒業後、自動車整備士として就職する傍ら、7年前から少しずつ農業を始め、地域の農地を任される中、平成25年に農業一本でと決意した直也さん。淡路島の自然に恵まれた環境で育った作物を消費者の方に届けたいとの思いから平成27年に「Top Field」を設立しました。

小さい頃から農業を手伝っていたこともあり、すんなりと農業に入り込め、近隣農家との意見交換も交えながら、土作りや栽培方法などの生産技術が確立していく中、販売に特化した卸会社を設立することで、生産から出荷、安定した販売に至る現在の体制作りを構築することが出来ました。

そんな直也さんの後ろ姿に惚れ直した奥様の真名美さんも昨年看護師を辞めて就農。良き理解者であり、貴重な戦力として直也さんをサポートしています。

現在、レタス7.5ha、玉葱1.5haを、真名美さん、母、従業員４名の計7名で行っており、朝採れた新鮮な野菜をその日のうちに、加工・外食業者などに出荷し、更に昨年から地元ホテルと米の栽培契約を結び、品種選定では大学とも連携した新たな取り組みをスタートしました。

「Top Field」の自慢は土作り。毎年ほ場ごとの土壌診断を行い、栽培作物に合った土作りに取り組んでいます。

また、安全・安心な作物を届けたいとの思いから、農薬の使用を抑え、独自の有機肥料を使用した栽培に努めています。

高齢化、担い手不足により耕作放棄地が増える中、農地の集積・大規模化を行い、近隣農家と協力しながら生産・販売の拡大が出来たらと考えています。

農家として、経営者として、安定した農業生産が行える取り組みを今後も模索し、淡路島農業の発展・継続に繋がればと思っています。

総合化事業計画を認定しました

～ quatre ferme 森田耕司（丹波篠山市）～

◆総合化事業の概要◆

平成24年に篠山市（現：丹波篠山市）に移住し農業を始めた森田耕司さんは、和綿や水稲、黒大豆等を栽培期間中、農薬や化学肥料を使用しないで生産しています。

平成31年4月末に認定を取得した総合化事業計画では､和綿の特徴を活かしたストールなどのアパレル製品の製造販売、黒大豆を使ったドライ枝豆やミートソースの製造販売、黒大豆ミートソースを使った料理などを提供する古民家カフェの営業、ブルーベリー観光農園に取り組むこととしています。

これらの取り組みを通じた「丹波篠山コットン」のブランド化や地域経済の活性化など、今後の活躍が期待されます。

和綿で製造したストールの試作品

総合化事業計画は、六次産業化・地産地消法に基づき、農林漁業者等が農林水産物等の生産及びその加工又は販売を一体的に行う事業活動に関する計画のことで、農林漁業者等の所得の向上や農林漁業経営の改善を図ることを目的として国が認定を行っています。

兵庫県における認定件数は、平成31年４月末現在で113件となっており、全国で北海道に次いで2番目に多い県となっています。

（農林漁業の6次産業化）
http://www.maff.go.jp/j/shokusan/sanki/6jika.html

～地域の話題～
農産物直売所を訪ねて

① 道の駅 神戸フルーツ・フラワーパーク 大沢（おおぞう）

道の駅「神戸フルーツ・フラワーパーク 大沢」は平成29年3月30日に神戸市北区に開設されました。

全国的にも珍しく同敷地内にはホテルや遊園地などを備えており、１日中遊べる体験型の道の駅として寄り道場所ではなく、目的地となることを目指しています。

道の駅の駐車場に車を止めると目の前に「FARM CIRCUS」と名付けられた３つの大きなサーカステント小屋風の建物があり、そのひとつが今回紹介する直売所です。

この直売所では生鮮野菜、精肉、加工食品など、およそ800種類の商品が常時販売されており、生鮮野菜は20～30種類程度を扱っており（取り扱いの種類は時期により変わります）、出荷生産者は神戸市北区を中心としたJAに登録しているおよそ100名になっています。

直売所では、運営者である株式会社北神地域振興と生産者が一緒になり、生産者は旬を大切にした販売を、直売所は生産者の商品への思いを伝えながら販売できるように手作りPOPで来店した方にアピールしています。

また、運営会社・生産者が一体となって収穫体験などを通じて食育、地元食材のPRなどを行い、地元とのつながりを大切にしています。

取材時のおすすめ商品とその料理方法を伺ったところ、スナップエンドウの筋を取り、両端を切って湯がくだけでスナップエンドウ自体の甘さが感じられ、とても美味しいとのことでした。

旬の味を求めて、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

名称：道の駅 神戸フルーツ・フラワーパーク 大沢（おおぞう）
所在地：651-1522 兵庫県神戸市北区大沢町上大沢2150
電話番号：078-954-1940
営業時間：10:00~18:00（店舗により営業時間は異なります）
駐車場：1500台
ホームページ：http://fruit-flowerpark.jp/

春の農作業安全確認運動実施中！

＜平成31年度のテーマ＞ 「まずはワンチェック・ワンアクションで農作業安全」

安全確認と予防対策で公道での農機による死亡事故を防ぐため「平成31年度春の農作業安全確認運動」を実施中です。

平成29年の農作業事故の死亡者数は304人で、そのうち65歳以上の高齢者による事故が256人と全体の84.2%を占めています。

公道での農機による【事故防止の3つの対策ポイント】

①確実な運転操作とブレーキ連結の確認
②安全キャブ・フレームの装着とシートベルトの着用
③低速車マークや反射板の取り付け

編集後記

毎年、5月は、季節が「春」から「夏」に変わっていくのを感じる時期ですが、今年は、元号が「平成」から「令和」となり、季節と共に、時代の変わり目を感じて、改まった気持ちになっています。新しい時代が「和」の字のごとく「やわらぎ」、平和で、災害の無い時代であるようにと、初夏の風に願いを乗せています。

O生

地方参事官ホットライン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見・ご質問などがございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまでお問い合わせ下さい。また、広報誌に対するご意見等もお待ちしています。

TEL：078-331-5924　FAX：078-331-5177